



子どものよろこび

— 昔の子ども ◆ 今の子ども —

霜田 静志

(井荻児童研究所長)
(ニイル研究者)

周 郷 博

(お茶の水女子大学教授)
(同附属幼稚園長)

◆はじめに

周郷 きょうは霜田先生と、子どものこと教育のことなど、いろいろお話ししてみようというわけです。日本がはじめて戦争に敗けて二十五年経った。その間にずい分日本は変わってしまいましたのでね。あまり日本は変わってしまったんで、何だか道に迷っている感じがある。

八十歳の誕生日をもうすまされた先生から、小さい子どもだったころのことなど思い出していただいて、昔の子どもと今の子どもことなど考え合わせてみようというわけなんです。

霜田 私は楽観論者なんですよ。ニイルもそうですが、人間は明かるいものを求める傾向があると思っています。特に日本人は昔からそういう傾向があったんじゃないですかね。

◆明治に育つ

——盛り上がる時代と努力する子ども

周郷 先生は八十歳になられた。幼児のころっていうといつごろでしょう。

霜田 生まれが明治二十三年です。から、学校に入ったところが日清戦争でした。日本が新しい世界に向かって盛り上がった時代ですね。徳川時代の圧政から抜け出して世界の文化を吸収し、明かるい世界に伸びようとした時代でした。私の幼児から少年・青年にかけて、日本の盛り

上がり肌で感じられたものです。

周郷 確かに日本の盛り上がったいい時代でしたね。先生の幼児期から青年期へかけては、本当に希望に燃えていたわけですね。日本人全体も今のように気持ち複雑じゃなくて、素朴で単純だったんじゃないですか。

霜田 そうです。先生の教えがそのまま信じられた時代でした。例えば日本は

どよい国はない、世界に誇るべき国体だということ素直に信じたものでした。

周郷 それで別に横柄とか高慢にはな

らなかつた。

霜田 そうです。外国の文化には尊敬と憧れを持っていましたしね。日本の国体は比類のないものだ信じて、文化のおくれさえ取り戻せばよい、そのためにはみんなで努力しよう、そういう精神を叩き込まれたわけですね。

周郷 叩き込まれたなんでものじゃなく、もっと素直に理解できたんでしょ。

先生の専門分野に入るけれど、無意識っていうものにごりがなくて、もっとサラッと自然だったんじゃないですか。建設的で新しいものも受け入れられる、日本がいい国であるということも理屈ではなく澄んだ無意識でサラッと受けとめたんじゃないかな。

霜田 そう。素直に信じて努力しました

たからね。明治時代の少年・青年は本当に努力しましたよ。

周郷 自発的にね。少年や青年は本気でやる気で勉強したんですね。

これは四国の田舎の話ですがね、高等小学校に入ると学校が近くにない、そこで朝三時ごろ起きて通ったそうですよ。ちようちんを下げたね。

霜田 私は、今浦和市に編入されている松本新田というところの生まれなんです

がね、駅から四キロくらい離れている荒川のほとりなんです。三年までは近所の小学校でしたが、四年からは師範の附属小学校に通いました。尋常四年と高等

科四年間とで全部で五年間、通ったわけですよ。附属小学校はよい教育をしていたと思いますね。何より先生が熱心でね。今は教育実習など当時ほど重きをおかないようですが、当時は一番大事な仕事

でした。附属にはしょっちゅう教生が来

ていましてね、その教生が受け持ち訓導を大事に扱っていましたよね。昔は生徒

よりもいい教育をしていたんです。その一人に特に影響を受けた先生がありましてね、昨年まで文通したり訪問し合

◆ 学校教育の普及と現代の悲劇
霜田 その当時は小学校だって、やり

ったりしていました。当時の文学青年で

霜田 ええ、そう思います。特に附属

たい人だけが行く形でした。学びたいも

してね、「文学は不朽の盛事なり」なんて黒板に大きく書いて生徒の文学熱をおったんですよ。そして、毎日欠かさず

周郷 そこが今どのくらいいいですね。その点、戦後の、つまり現代の問題

日誌を書いてこいってわけで、生徒の日誌に批評を書いてくれるのです。それが嬉しくってね。私がどうやら文章が書けるのはこういう指導のおかげです。ありがたいことでした。

霜田 そう。かつて私は多摩美大で教

がたいことでした。教師は何しろ新鮮な意欲で張りきった仕事をしてくれましたから、正規の訓導よりも強い印象を受けました。

霜田 一学級四十名でした。でも、高等二年、今の六年になると中学校へ行く人が抜けて二十名くらいになり、だから

が入っているんですよ。美術学校へ来る人間なんて本当に絵が好きで、周囲の反対を押し切って来るんだと思っていま

周郷 つまり、教師と子どもに人間的な結びつきがあって、いっしょに坂道を上がっていくという感じがあったんだな。それに、昔の方が生徒ひとりひとり

霜田 ええ村の小学校で、三百名くらいでしたかね。義務制も徹底していなく

学に入れと言われて、試験がやさしいか

いなどころにいたんでしょう。それは小さな学校です。

霜田 一割か二割は何のために来たかわから

ない。中には、親にどこでもいいから大

いでしたかね。義務制も徹底していなく

学に入れと言われて、試験がやさしいか

学に入れと言われて、試験がやさしいか

ら入ってきたなんてのもありました。

という情勢がなくなりすぎた、みんな

邪魔することは許されない」というんで

代が移るにつれていけなくなってるんだ

こかに入ってしまう。考えてみれば現代

自由の生活ができるんですがね。

な。自発的に何かやりたくて学校に入る

の悲劇です。ね。

周郷 正宗白鳥などが早稲田大学に入

ったところは試験なんてなくて、本当に入

りたい人は誰でも入れたという。ところ

が、そのうち試験に受かることが手柄に

親に反対されてさんざん苦勞しました。

なって、受かるか受からないかが中心に

がある。隣の子なんかいない方がいい、

ようやく美術学校でも師範科ならばとい

なっちゃった。

自分さえ入れればってわけ。こうなって

うことで入ることができたんです。そう

学びたくて入るのは大正のはじめごろ

くるともう学校へ入ること自体が道徳的

いう時代だったんですね。

まででしょうかね。全く変なもので、自

に悪ですよ。社会的な連帯感なんかも駄

周郷 ある意味ではそれが大変な自由

尊心とか世間体で勉強するんだから、勉

目になるし、勉強そのものも駄目になっ

だったんじゃないかな。学校なんて入り

強もものにならないわけですよ。

ちゃう。

たい人だけが入る、入りたくない人は入

られない。

ラッセルが言ってるけど、本を読むん

らなくていい。

十四、五歳以上は特に志を立てて勉強

でも他人との競争じゃ身につかない。他

しようと思つて入ったわけですよ。今は

やない、ってことですよ。ニイルがよく

人との競争じゃなくて、自分が本当に読

志なんか立てないね。志なんか立ててい

言つてるのは、「この学校は自由学校

めやしない。

るひまがない。そこが大きな問題だな。

であつて、勉強したくなかつたら決して

こういう意味じゃ、ニイルのサマーヒ

霜田 本当に学びたい者だけが学ぶ、

しなくともよい。しかし、他人の勉強を

ルの学校と同じとはいえないけど、明治

時代の教育には、そういうふんい気があったんですよ。進取の気性とか立志とかいってやる気があって勉強する。

霜田 そう。確かにそうですね。

それに大事なことは、学校は学科を教えるだけのところじゃない。私なんか、

附属小学校に移って先生が子どもといっしょに遊んでくれるのを知った時、嬉しかったですね。これはいい学校に入ったと、しみじみ思いましたね。先生と子どもが一体となって遊ぶ学校、それが本当の教育ですよ。

ニイルの言ってるような教育が、確かに日本にもあったわけですよ。私なんかの時代には、生活教育という言葉は無かったけれど、生活教育が行なわれていました。

周郷 そう。社会はずい分変わったけれど、新しい教育をアメリカなんかを探しに行くんじゃなく、我々の過去の中に

も求めたらいいんじゃないですかね。

日本の過去に、社会自体が落ちついて希望を持って動いていた時代があって、そこにいいものがあつた。それが、今の

新しい教育とつながるようなものじゃないですかね。

霜田 そう。それに当時は国民全体の生活が根づいていました。今みたいにガサガサしていなかった。

◆ 昔の子ども今の子ども

周郷 ところで先生の小学校入学以前のこと、何か思い出していただけませんか。

霜田 どうも思い出せませんね。記憶に残っているのは小学校ごろからです。私は意気地のない気の弱い子どもでしたよ。なかなか人の中にとけ込んでい

なくてね。

周郷 それは僕なんかも同じだな。僕

は印旛沼のそばで田舎の小学校ですから二百名くらいの小さな学校ですがね、もう人がうようよしていて恐くてしようがない、とうとう恐くて帰っちゃった。

霜田 上級生がおとなに見えてね、そばに来るだけで恐くなりました。

周郷 先日、ヨーロッパをまわって感じたのですがね、ヨーロッパの子どもはおとなしいんだな。日本の子どもと比較すると実におとなしい。ところが、

実ったものや絵なんかはいいんですよ。実におもしろい。そこで以前聞いた話を思い出しました。中国の子どもは魔法びん

だつて言うんです。つまり、外側は冷たいけど中味はとても温かい。ヨーロッパの子どももそうなんです。日本の今の子どもは逆なんじゃないかな。外はワサワサして積極的だけど。その点、明治の子どもも魔法びんだったんじゃないか。

外見はおとなしく内気だけど中はやる気

があつて志が秘められている。

霜田 今の子どもは、いわゆる情報化

時代でね、外側からの影響が多すぎるん

じゃないですかね。特にテレビの刺激で

いろいろなものがつめ込まれすぎてます

ね。実際に触ってみたこともないのに何

でもよく知ってるんですよ。そして、

テレビでつめ込まれた知識を自分のもの

だと思ひ込む。恐いことですね。

周郷 何か外側から作られちゃってる

んですね。

それに親も、やたらにチャホヤ機嫌を

とるだけで放つたらかし。きちっと育て

ないで何しろテレビ見るんだから。

霜田 子どもたちにお月さまの話をし

ていたら、ひとりの子どもが、こういう

んですよ。「お月さまって大きいんだ

よ。この部屋よりもっと大きいんだよ。

ちよっと見るとボールくらいにしか見え

ないけどね」って。こうしたおとなから

借りものの知識でいっぱいの子どもを見

ると恐いことだと思ひますね。

周郷 そう。実に観念的。そして、そ

ういう教育を実際にやってるんですよ。

うす気味悪い物知りを作りすぎる。

日本という国は、大正時代から子ども

相手の雑誌が出たりして、子どもを餌に

した商売ができすぎてしまった。そし

て、子どもがさんざんいじくりまわされ

てる。学校も親も、子どもをいじくりす

ぎるんだよ、愛情のつもりでね。そつと

しとくのが愛情なのに、間違えてる。

霜田 自然の中に育つのが大切な

に、それができないのが現代の不幸でし

ょう。

周郷 子どもってのは自然の一部で神

秘的な存在なんだ、そもそもね。アメリ

カ流の心理学なんかではわからないよう

な存在ですよ。

精神を計量的に扱いますね。計量で

きない部分に本当のその人がかくれてい

るものなんですかね。

周郷 そう。子どもは計量以上の存在

なんだ。外から見えて、計算できるもの

に引きずりまわされていますよ。

日本人なんて本当なら内気なものなん

だ。それが今は、内気なことはいけない

ことみたいでしょう。内気な人の中にあ

る本当の大事なものを殺してしまってい

ます。現在の子どもが学校に入るってこ

とは、大事なものを殺されるってことに

もなる。教育と称して、国民的な人殺し

をやってるんじゃないですか。

霜田 そう。人間の本当の深いところ

をよく育てないかね。今の日本の子ども

は、外面的なものに引きずりまわされ

ているし、学校も外側だけを育ててい

る。これが、現代の一番の問題でしょう